

2002年「国際山岳年」に向けて 日本山岳会は何をするのか？

小野有五・渡辺悌二



ヒマラヤの美しい朝 アンナプルナ山群 (2000年11月 写真はいずれも江本嘉伸撮影)



2001 年 (平成 13 年)
8 月号 (No. 675)
社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club
定価 1 部 150 円

目次

2002年「国際山岳年」に向けて日本山岳会は何をするのか?・・・1
 海外の山・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
 報告
 医療委・登山医学シンポジウム 6
 総務委・委員会等連絡会議・・・6
 科学委・探索山行・奥会津・・・6
 山研運営委・徳本峠越え・・・・・・7
 自然保護委・日光観察山行・・・・7
 資料／フィルムビデオ委・世界岳都都市会議開催に全面協力・8
 フィルムビデオ委・新規購入ビデオ紹介・・・・・・・・・・・・・・8
 山岳地理クラブ・新発足初のフィールドワーク相模野基線へ・9
 上げらの会・歩くスキーツアー 9
 支部だより
 宮城・東北地区集會開催・・・・10
 岐阜・トルコ第三の山登頂・・11
 東西南北
 瑞牆山麓植樹祭会場見学記・・12
 荒沢奥壁の小谷部全助・・・・12
 俳句・初夏の後立・・・・・・・・13
 Sanken Life・・・・・・・・・・・・14
 図書紹介・・・・・・・・・・・・15
 『安曇野紀行』『山旅友』『シェルパーヒマラヤ高地民族の二十世紀』
 新入会員・図書受入報告・・・・16
 会務報告・・・・・・・・・・・・17
 ルーム日誌・・・・・・・・・・・・18
 INFORMATION・・・・・・・・・・・・19

▶日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木・・・・・・10~20時
水・金・・・・・・13~20時
第2、第4土曜日・・・・・・閉室
第1、第3、第5土曜日・・10~18時

国連は二〇〇二年を「国際山岳年」とすることを決定した。登山者、山岳愛好者、山岳研究者だけでなく、これまで山岳には関心をもたなかった世界中の人々も、山岳に目を向ける絶好の機会といえる。四年後には、創立百年を迎える日本山岳会には、その伝統と活動にふさわしい対応が期待されるであろう。二〇〇二年が始まってからでは遅い。来年まで残すところすでに半年をきった現在、日本山岳会として国際山岳年にどのような真剣に取り組むのか、という問題は今まさに問われているのではないか。

私たちは昨秋から、日本山岳会だけでなく、山に関わるさまざまな団体や人々と連絡をとり、一市民の立場でこの課題に取り組んできた。地球規模でやるべきことは、まず市民が始めるべきだと考えたからである。

多くの組織や山岳愛好者・研究者の協力によって、国際山岳年の具体的な計画が立てられつつある。しかし肝心なことは、日本山岳会のなかから、こういうことをやろう、そういうことなら力を出そうという声もあつと上がることはないだろうか。

日本山岳会でまだ国際山岳年のことも知らない会員がおられるとしたら、それは私たちの責任でもあるが、これを機会に、すべての会員が二〇〇二年の国際山岳年に向けて自分は何ができるかを問うていただきたいと願うものである。

国際山岳年の背景とこれまでの国際的な流れ

リオデジャネイロで一九九二年に開かれた「地球サミット」で、「アジェンダ21」持続可能な開発のための人類の行動計画」が採択されたこと



槍ヶ岳と松本市を結んで山岳環境についての“テレビ会議”も



山岳団体が一堂に会し「国際山岳年」について話し合われた(2001年2月22日国連大学で)

はご存じの方が多いただろう。だが、このアジェンダ21の第十三章に「脆弱な生態系の管理」持続可能な山岳開発」が設けられたことを知る人は少ない。けれどもリオのアジェンダにこの第十三章が挿入されたことによつて、世界の山岳地域における環境問題は、二十一世紀の大きな課題のひとつとして位置づけられるようになったのである。

国際山岳年は、山岳に関するこの第十三章を具体化するために、ようやく一昨年の国連総会で決議された。二〇〇二年は「地球サミット」が採択されてちょうど十年目にあたる。この十年間にわれわれが何をしていたのか、また二十一世紀に向かって何をしなければならぬのかを問うための年として、二〇〇二年が選ばれたのである。

国際山岳年のコーディネーターと



「国際山岳年」ホームページの表紙

こでの農業や林業のありかたがまず問題となるのは当然とも言えるのである。

国連の決議に従つて、FAOは加盟国に対してさまざまな活動の実施協力要請を行ってきた。これまでのところ、イタリア、アメリカ合衆国、キルギス、ネパール、ペルー、モロッコなど、世界三十四カ国で国内委員会が設立、また設立が計画されており、現在も国内委員会を持つ国の数は増加している。

たとえばイタリアでは、大統領、首相、上下院議会の後援を受けてすでに国内委員会が発足した。その主要なイベントとして位置づけられている「ハイサミット (High Summit)」では、国際ビデオ会議が計画されている。これは各大陸の最高峰のベースキャンプにおいて、それぞれの地域の関係者が、山岳に関するトピッ

してはFAO (国連食糧農業機関) が選ばれた。山岳のことになぜFAOが、という疑問をもつ人も多いであろう。しかし世界全体でみれば、山岳地域を生活の場に行っている人々はかなりの数にのぼる。山岳地域の脆弱な環境を守ろうとすれば、登山や観光だけでなく、FAOが対象としているそ

日本では外務省が国際山岳年への協力要請を受けたものの、残念ながらこれまでのところ、公式の国内委員会を組織するには至っていない。

私たちが一市民としてこのような取り組みを始めたのは、国の対応を待っている手遅れになるという危惧をもったことと、山岳を愛する者として、政府や役所に言われたから何かするといふのではなく、まず自分から山のために何かできないかと考えたからである。これまでに何度かの集まりを持ち、二〇〇二年に向けて何らかの活動をしていこうと自発的に準備を進めてきた。

これまでの準備段階で、最も大きな力になったのは東京の国連大学であった。国連大学では、アジェンダ21の第十三章を受けて、二〇〇一から二〇〇二年にかけて、国際的協力を得て、世界の山岳地域の持続的開発をよりよい方向にもつてゆく努力をしようという、「国連大学グローバ

クについて議論を行い、視聴者に山岳地域の重要性を訴えることを目的としたものである。

また、先頃王室の大惨事があったネパールにおいても、先日、国際山岳年のために各省の大臣からなる委員会が設立されたところである。

日本における準備状況

ル・マウンテン・パートナーシップ・プログラム」をスタートさせていたからである。このプログラムに合わせて、国連大学は山岳に関係を持つ複数の日本人を招待し、二度にわたって会議を開いた。その結果として、日本でも国際山岳年に独自の活動を行おうという認識がようやく形成されるようになったのである。

国連大学のこのプログラムの一環として、まず昨年十一月には、北海道大学などがカトマンズで「ヒマラヤの環境に関する国際シンポジウム」山岳の科学とエコトリズム・生物多様性」を開き、国際山岳年への貢献の必要性をネパールの人々や参加した各国の研究者・山岳愛好家に呼びかけた。

その後、公式の国内委員会の設置準備を模索する一方で、当面の世話役として、本会会員の小野有五、渡辺悳二、江本嘉伸らが関係諸機関や個人と調整を行っている。現在の活動の一つが国際山岳年のホームページの立ち上げ、運営である。現在は、北海道大学のサーバーを使って、国際山岳年ホームページ(<http://www.ym-japan.org/>)を運営しており、そこで国際山岳年に関するさまざまな情報を提供している。

しかし、ホームページの更新、海外からの問い合わせへの応答などを

考えると、私たちだけで細々と対応していくには自ずと限界がある。公的の国内委員会の一日も早い立ち上げが望まれるのである。

学術分野での取り組み

学術研究分野では、まず日本地理学会がこの三月に日本地理学会国際山岳年対応委員会を組織し、山岳に関するシンポジウムなどの開催を企画している。二〇〇一年九月には、秋田大学でプレ・シンポジウム「山岳地域の自然保護と利用・管理」を、二〇〇二年三月には日本大学で、また十月には金沢大学で一般市民を交えたシンポジウムを開催する予定である。また、森林利用学会は二〇〇二年九月から十月に「二十一世紀の育成林業の課題と役割に関する国際セミナー」を開催することを決定した。

さらに、今年八月に東京で開かれる国際地形学会議では、日本を含む東アジアの高山の氷河地形や周氷河地形の研究発表がまとまったかたちで行われ、その成果は海外の国際学術雑誌の特集号として二〇〇二年に記念出版される予定になっている。また国際環境研究協会が英文雑誌「Global Environmental Research」を国際山岳年の特集号として出すなど、いくつもの学術雑誌で国際山岳

年を記念する出版物が予定されている。記念切手の発行を働きかけることも、日本山岳会にできることの一つであろう。

さらに私たちは、国際山岳年が一年限りの「お祭り」で終わってはならないという認識を強く持っている。一般の人々をできるだけ巻き込んで、山岳のすばらしさや山岳環境の脆弱さ、その保護の重要性を知ってもらうことも大事だが、もっと重要なことは、この年をきっかけとして、山岳地域のさまざまな研究や保護・管理を中長期的視点に立ってスタートさせることではないだろうか。誰でも「日本は山国である」とは

言うが、山の自然や環境について、きちんとした継続的な研究や観測はこれまでほとんど行われていないのが日本の現状である。富士山頂は別として、槍ヶ岳や北岳のような日本を代表する高山でも継続的な気象観測すら行われていないし、日本の山岳環境を特徴づける雪渓の変動も、長期的には行われてこなかった。高山植物は温暖化だけでなく盗掘によって絶滅の危機に瀕している。登山道の侵食、糞尿の垂れ流し、どれをとっても、山国である先進国、日本ならではの対応が遅れているのが現状なのである。国際山岳年を大きな転換点として、日本の山で世界に誇

るべき山国である」とは

6,000m以上の1,215峰を全て所収 世界初の精密登山地図 完成!!

宮森常雄 著 (ヒンズークシュ・カラコルム研究会)

カラコルム・ Mountaineering Maps
ヒンズークシュ of the KARAKORUM
登山地図 & HINDU-KUSH
by Tsuneo Miyamori

B全判地図13葉

(付)カラコルム・ヒンズークシュ山岳研究 (宮森常雄 雁部貞夫 共著)

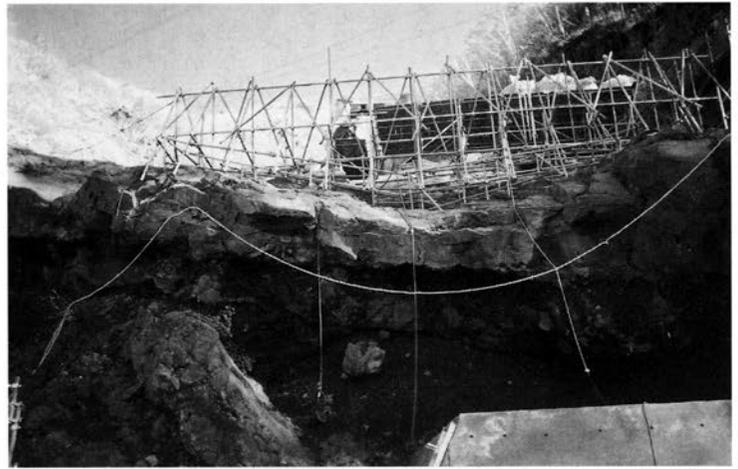
A4変型判・上製美装ケース入 385ページ

◎好評発売中!! 定価(本体33,000円+税)

国内外の多くの登山家・探検家による最新情報を刻み込んだ世界で最も詳しい登山地図がついに完成! 全て経緯度を位置付け、既登峰・未登峰を明示。氷河地帯の知りうる限りの情報も満載。別冊山岳研究では貴重なパノラマ写真に高度と山名を添えて掲載。現地言語による地名山名研究と併せてヒマラヤ全域の知識を提供する。

ナカニシヤ出版

〒606-8316 京都市左京区吉田二本松町2
Tel.075-751-1211 Fax.075-751-2665
URL <http://www.nakanishiya.co.jp/>



美しい山容の富士山も内部はもろい。(大沢崩れの補強現場で。2000年11月5日)

が決まっている。またフォーラムにひきつづいて、世界各地から山岳の環境問題に関する代表を集めて、山岳の生態系の保全に関する国際セミナーが開催される予定である。これらによって、国際山岳年のオープニングをみんなに強く印象づけ、十二月には、クロージング事業としてのフォーラムが予定されている。

登山団体の動き みんなでつくる「国際山岳年」

温度差はあるが、登山団体も「国際山岳年」を認識し、ようやく動き出そうとしている。具体的には今年二月二十二日、日本山岳協会、日本動労者山岳連盟、日本山岳会、

れる山岳の環境管理体制をつくれな
いものであろうか。
前述の国連大学はすでに具体的な
プログラムを準備している。二〇〇
二年一月末には日本における国際山
岳年のオープニング事業として、一
般国民を対象に山岳に関するフォー
ラム「環境と人間活動」を東京渋谷
の国連大学大ホールで行い、同時に
国際山岳協会(International Moun-
tain Society) 会長、ジャック・ア
イブスの山岳写真展を開催すること

日本ヒマラヤ協会、HATJの代
表たちが国連大学に集まり、二〇〇
二年に向けて登山組織がどんなこと
ができるか話し合ったことが実質的
なスタートとなる。以後、ほぼ同じ
顔ぶれで何度か話し合いがもたれた
が、組織の役員人事改選と重なって
「新体制」が決まってからでない
動きにくい(日本山岳協会、日本山
岳会)などの事情で、四月以降は横
断的な話し合いは持たれていない。
「国際山岳年」であって「国際登山

年」ではないことが登山団体にとつ
てやりにくい面があることは否定で
きないが、山岳あつての登山である
ことを考えれば、むしろ絶好のチャ
ンスと言えるのではないのか。たと
えば、糞尿やゴミによる汚染や大沢
の崩壊が進む富士山の現状を、登山
愛好家全員が考え、その歴史、宗教
などを含め再生をこめて世界にアピ
ールするなど考えられている。

七月七日から十一日にかけて、松
本市では「エコ・アルプス21 in 松本」
というフォーラムが開かれた。十月
に予定されている「世界岳都市会
議」を控えての記念イベントの一つ
で、カナダのマーチン・ウィリアム
ズ、ニュージーランドのラッセル・
ブライス、日本の田部井淳子ら海外
のベテラン登山家、冒険家に日本の
石川直樹、山田淳といった若手が二
十一世紀の山と冒険を考える」のテ
ーマで話し合った。翌日は槍ヶ岳に
登り、頂上直下と松本駅前を結んで
のテレビ会議もやつてのけた。山を
通して国境と世代を越えた交流が実
現した点で、まさに「国際山岳年」に
向けてのイベントにふさわしい
ものだった、といえよう。

一方では、学術研究分野や登山界
の垣根を意識しない活動も散見され
るようになってきた。ある企業は、
国際山岳年を記念するアートカレン

ダーの出版と展覧会を全くのボラン
ティアで企画してくれている。こう
した草の根の活動を通して、日本の
誰もが国際山岳年を知り、またそれ
によって山岳への関心と山岳の環境
保護の意識が高まることを私たちは
期待したい。

もう一つ、特筆すべきは、国連が
二〇〇二年を国際山岳年であると同
時に「国際エコツーリズム年」とし
て位置づけたことである。山岳に生
きる人々がその環境を壊さずに持続
的な生活を営むためには、山岳での
エコツーリズムの発展が欠かせない。
これはヒマラヤだけでなく、公共事
業によって山岳・渓谷の自然を壊し
続けてきた日本にとつても緊急の課
題であろう。私たちは二〇〇二年
七月から八月に、大雪山において、
国際フォーラムならびにエコトレッ
キング・フェスタを行う構想をつく
り、北海道や地元と話し合いを始め
たところである。

ここにあげたさまざまな試みのど
れか一つにでも、日本山岳会の会員
のご協力がいただければ大歓迎であ
るが、さらに新しい発想を会員の皆
さまから出していただき、日本なら
では「国際山岳年」をみんなの手で
つくっていったら、これにまさる喜
びはない。

どうかよろしくお願いいたします。

海外の山

サマハ山頂
サッカー顛末

江本嘉伸



ここがサマハ山頂、サッカーは息切れしそう(片山忍撮影)

東京外語大山岳会員の鈴木久仁夫がボリビアの最高峰、サマハ山(六五四メートル)に登ったのは、東京オリンピックの開会まで一カ月あまりの一九六四年八月十七日のことである。後輩と二人で首都ラパスから五、六時間かけてトラックで麓のアイマラ人の村に着いた時のこの独立峰の印象は「ややずんぐりした富士山」だった。上部に行くトリツジとなり、一カ所だけザイルを出した。

何よりも風の強いのに閉口した。雲に覆われて見えなかった下界が、風に雲が飛ばされた部分だけ望めるという状態だった。

「印象に残っているのは、誰もいない、人の気配のない山、ということ。風には悩まされたが、その人気(ひとけ)のなさがよかった」

山頂は広がった。風が一層激しく吹きすさび、カメラを構えても指先が凍えてシャッターを押せないほどだった。広い山頂を十五分ほど歩き回って地形を確認してからゆっくり下山した。一九三九年八月、ドイツのヨセフ・プレムらによる初登から数えて第六登、自分の登山人生にとって最高到達地点となったサマハの頂は、鮮木にとって三十七年を経てなお、鮮やかに思い出される大事な場所だ。

二〇〇一年七月初旬、そのサマハのベースキャンプに八十人ほどの人々が集結した。登山隊と違う雰囲気だったのは、テント、登攀用具のほか、ボール、ゲートなどサッカー用品が持ちこまれたからだ。そう、五月号のこのコラムで書いた「世界最高所サッカー」を企画したボリビア山岳会の面々と関係者がほんとうにサマハにやって来たのである。

一チーム十五人として、四チームを編成し、頂上で十五分ハーフのサッカー試合を行う——という計画だった。四チームはふりとしてひとつ

つの試合をするためには審判を含め三十人前後の人数が要る。ともかく中間地点の高所キャンプまで四十五人が登った。

しかし、高度の影響と強風でその先が難航した。七月七日、三十人ほどが山頂を目指したが、リタイアが続出し、結局登頂したのは八人だけ。山頂サッカーは成らなかった。

六五〇メートルはサッカーする場所ではない、と誰もが思うだろう。だから八月四日、「山頂サッカー成功！」の一報が入った時は驚いた。八月三日未明、高所に強い地元のアイマラ人たちが十七人が四二〇メートルの山麓の村を出発、午前十時までに登頂し、七人ずつに分かれてサッカーをやり、二十分ハーフの試合を「3-3」で引き分けた、というのだ。

この成功の陰には増山茂会員が客員として在籍する「ボリビア高所病理学研究所」の周到な実行計画があったらしい。七月の失敗を反省し、気象情報を徹底的に分析、さらに事前のメディアでの宣伝をやめて、最強のアイマラ人たちが行動するようにした。高所医学にとって今回の試みがいかに重要な出来事であったかがうかがえる。

ボリビアのサッカー熱は、いつごろから本格化したのだろう。鈴木久仁夫たちがサマハ山に登った当時、ラパスでも山麓の村でも、サッカー

をやる人たちの姿は見かけなかったという。しかし、二〇〇一年六月十五日、サマハに登った、馬旅愛好者でネパールなどの山旅ガイドもする元気者の片山忍は、ボリビア全土のサッカー熱の高さに驚かされた。山の中腹に段段畑状になって広場があり、休日になると、そのすべてがサッカー場になるほど、なのである。

山頂サッカーは当初六月十五日頃実行される予定だった。増山会員から情報を得た片山は実はゲームに参加するつもりで日本から出かけたのである。それが事情で延期され、やむなく片山は、アイマラ人ガイドのユーレヒオとともに登頂だけ果たしたが、確かに山頂はボール蹴りが可能なほどに広がった。他に人はいなかったため、ユーレヒオをボールに見たてて、ユーレヒオがサッカーの真似事をするショットを撮影した。サマハは頂上から氷帽が流れ下る氷河の山である。ユーレヒオは、フランス人氷河学者に協力して二十四日間も山頂に滞在したことがある、と言った。

「あそこでほんとうにサッカーをねえ……」サマハ山頂でのサッカー決行を知った鈴木は、千葉の自宅感慨を語った。いま六十六歳。この春、胃の除去手術をして療養中の山男にとって、このニュースは青春の日々への思いがけぬ回帰と、人間のあくなき挑戦心を知る刺激剤となった。

報告

REPORT
8月

医療委員会

第二十一回日本登山医学
シンポジウム開催される

五月二十五、二十六日、小野寺昇会長（川崎医療福祉大学教授）のもと、第二十一回日本登山医学シンポジウムが大山山麓（大山町、ホテル大山）で開かれた。中国地方での初開催であった。両日とも天候に恵まれ、秀峰大山の威容が眼前に楽しめた。シンポジウムの主な内容は、以下のとおりである。

特別講演

甘味抑制植物ギムネマの話（日地康武・鳥取大学名誉教授）

教育講演

遣伝子から見た高所医学（大野秀樹・杏林大学教授）

登山医学関連国際学会と国際山岳連盟医療委員会について（中島道郎・高折病院院長）

シンポジウムⅠ

日本山岳会の各委員会
同好会の活動報告です。

大山登山の歴史と風土（亀尾崇・松下順一・小坂秀己）鳥取山岳協会
シンポジウムⅡ

登山とアルコール飲料（田村健治・久米桜酒造）

一般演題・十五題（低酸素室の利用やダイアモックスの服用など、実際の発表が多数）

なお、功労賞は永年の登山医学研究に対し、古原和美・長野県山岳協会名誉会長（本会会員）に、奨励賞は「全国規模での中高年登山者の実態調査」研究に対し山本正嘉・鹿屋体育大学助教授（本会会員）に授与された。

参加者は七十八名。そのうち二十一名が最終のシンポジウムⅡに出席し、大山登山組二十三名はそれを待たずに登山を開始した。小野寺グループのていねいな運営もあって、シンポジウムⅡが示すようにアルコーにも恵まれ、和気あいあいの集まりであった。次回は、松林公蔵・京

都大学教授（本会会員）によって開かれる予定である。（大野秀樹）

総務委員会

委員会・同好会連絡会議

七月四日、十九時より本部会議室において毎年開催の連絡会議が行われた。委員会・同好会の関係者三十名が出席し、ルーム利用時のマナーの徹底についての再確認やインターネットの今後の活用状況、自然保護をはじめ委員会活動の報告などが行われた。また、同期会の在り方については、相互の連携を取り合っており、義ある同好会への発展を目指すなど、引き続き今後の方向性の示唆も検討された。（畠中 丘）

科学委員会

探索山行・奥会津に
高層湿原とブナ林を訪ねる

事前踏査時よりご協力いただいた地元会員二名の現地参加を含め、参加者四十四名、六月十六、十七日の日程で、駒止湿原及び志津倉山登山にて実施した。

十六日八時、高速道路に入りやすいJR南浦和駅前をチャーターバスで出発。はじめに訪ねる駒止湿原について、今回の講師、山田彬委員よ

り、車中、高層湿原、低層湿原の生成、特徴など事前知識の講義を受け、駒止湿原を散策。思っていたよりも規模が小さく、水芭蕉も終わって、少々淋しいものであった。

道路の渋滞で、スケジュールが遅れたため、段取りを少し変えて、大沼郡三島村役場会議室を会場にして、地元志津倉山岳会、志田会長による志津倉山登山道開拓などのご苦労話を拝聴。続いて、山田講師による予稿集とスライドを使つての、日本各地のブナとブナ林の特徴、化石に見る古代ブナとの比較、自然林の生成、遷移等の講義があった。講演後、宮下「ふるさと荘」に移動、食事と懇談会を行つた。

翌朝、三島町の中型バスと乗用車に分乗し、志津倉山登山口まで送つていただき登山開始。所要所で実物を前に、ブナ及び混生成高木、下層植生などについてのタイムリーな説明があり、やせた岩稜で堂々と根をはる五葉松の太木の極相など、興味を持って観察した。志津倉山は登山道もよく整備されており、登り下り約六キロの程よい山行であった。しかしなんとと言っても、圧巻は白神山へと通じる雪国型ブナ林と混生高木の豊かさである。もう宣伝しないでくれ、あまり人が入らないでくれと手前勝手な独占欲を刺激される

ような山様で、今更ながら、自然の広さ、深さ、瑞々しき、三〇〇年を超えて生成される自然の仕組みに心を打たれた。

自然と森の偉大さに、敬意と尊崇を感じた二日間の山行であった。

(宮津公一)

山研委員会

徳本峠越えとウエストン祭に参加して

山研委員会より、偉大な先人ウエストン師の歩いた道をたどって上高地入り、「山研」で一夜を過ごし、ウエストン碑前祭に出席する機会を与えられ、喜んで参加を申し出た。

六月二日、島々宿の出発会場で顔を会わせた新入会員は十名(他に家族二名)。出発式の後、森武昭サブリーダーに従って行動を開始する。最後に山研担当理事の小川リーダー、間に山研委員三名が入り、サポート体制は万全。いつもは静かな道も、今日は安曇村の子どもたち、信濃支部の方々、一般登山者など六百五十人で大賑わいである。ニリンソウ、エンレイソウ、サンカヨウなどの花が咲く南沢を離れ、クマザサの中をジグザグに登って十三時、徳本峠に着く。

気温一〇度、やや氷雨模様だった

が、峠から眺める明神や前穂の岩峰は期待に違わぬ美しさだった。小屋で温かい豚汁をご馳走になり、残雪のジグザグ道から新緑の美しい明神へとノンストップで下る。山研では坂本、太田、宍倉の山研委員、木村管理人夫妻に温かく迎えられ、思いがけず大塚会長にもお目にかかることができた。坂本委員が腕を振るった豪華な晩餐会、夜の更けるのも忘れる楽しい集いだった。

明ければ雲ひとつないまぶしい青空。山研のテラス正面からは六百山、霞沢岳が仰がれる。コナシの花咲く梓川畔を穂高や焼岳を見ながら散策する。碑前祭の開始までの時間を森サブリーダーから「ミニ水力発電装置」の説明を受け、善六沢の水源を見学。装置の維持管理に腐心している木村管理人は付近の草花について詳しく、いろいろ教えてもらった。

五十五回を迎える山の祭典は、碑への献花、大塚会長はじめ来賓の祝辞、エーテルワイスクラブと安曇村小学校の生徒の合唱など、盛大かつ厳粛に進行した。式典終了後、信濃支部の厚意による午餐会に出席、最後にウエストン師の好きだったというカレイライスが出され、名残惜しい上高地を後にした。

今回の催しに参加して、諸先輩方がいかに新入会員に心を砕いてくだ

さっているかがよく理解できた。山研委員、信濃支部の皆さまに心から感謝申し上げます。また、山行を共にすることで同期の絆がより強まったことを痛感した。今後もできる限りいろんな行事に参加していきたいと思う。

(芳村嘉一郎)

自然保護委員会

自然観察山行 日光の森で樹々と語り合う

六月二十三、二十四日、二十五名の参加者は、日光の森を歩きながら自然観察山行を楽しんだ。

一日目は、東京大学付属の植物園。「真っ赤な花が少ないのはなぜ?」主任の館野さんの問いかけに考え込む……「虫には赤い色が見えないので、花たちは他の色で虫を誘う。鳥には赤い色が見えるから、木の実も赤く色づいて鳥を呼ぶ」という話にうなずきながら、自然界の不思議な摂理に引き込まれていった。あの毒々しく見えるマムシグサの実でさえ、赤くなれば食べられるとか。植物の光合成の真剣な営み、秋の紅葉の仕組み、落葉松の植林による植生の変化、果ては鹿の公害の悩みにまで及び、話は尽きない。

宿は竜頭山の家。岩魚の燻製など詩人でもある前田さん心づくしの夕

食をいただきながらのミーティング。観光地としてではない、日光の奥深い魅力に心を動かされた。二日目は梅雨に濡れながら出発。日光森林管理署の由田さんたちの話を聞きながら、まず中禅寺湖畔を千手ヶ浜まで歩く。

この時季、遠くからでも目立つマタタビ。「葉の先が白くなるのはなぜ?」葉の下に咲いた小さな五弁の可愛い花をみつけた。初めて見るこの花は、葉に自分の存在を見つけてもらう役目を楽しんでいる。

広場で昼食をとる頃には、雨も上がり青空が広がっていた。湿地に群生しているのはクリンソウ(九輪草)。

ワインを直輸入しています

主にフランスはブルゴーニュのワインを中心に輸入しています。こだわりの無名ドメーヌを発掘!! 今、ワイン界に新風を送っています。SO2の少ないピュアなおいしいワインを、毎年フランスに行きドメーヌから直接買いつけています。素晴らしいおいしさです。ぜひお試しください。全国発送いたします。ホームページをご覧ください。
<http://www.winedou.co.jp/>
トップコンテンツのマキノレポートは山とワインのレポートです。メールマガジンもよろしく。

マキノ酒店有限会社 牧野 菊生 (会員8299番)

千葉県印旛郡富里町日吉台5-10-7
TEL: 0476-93-2200
FAX: 0476-93-7548

●日本ソムリエ協会関東支部ワインアドバイザーコンクール入賞 ●フランス食品振興協会(ソベクサ)認定コンセイエ(小売店のソムリエ) ●ワイン総合研究所公認名誉ワインマスター

真紅や桜色が美しく続いている。
午後からは、シラカバ、ミズナラ、ハルニレの原生林に向かう。ここでは川の流れが蛇行していく様子も、シラカバが朽ちて、やがてミズナラに場をゆずる様も、大きな世代交代をそのままに見せてくれるよう、森が保護されている。遠い昔にまで思いを馳せながら西ノ湖へ。
もとは中禅寺湖の一部だったが、今は深山に取り残された遺留湖。こ



の湖水の量の変化の中で、ヤチタモ(谷地栲)の原生林が残されてきた。
その後私は北海道への山行で、大沼湖畔にテントを張った際、ひとかかえもある立派な幹が立ち並ぶ林に出会った。梢を渡る風に飛ばされて、奇数羽状複葉の小枝が落ちてきた。ヤチタモとの再会に感激。
また、四月に植えた「高尾の森」のミズナラ、ブナ、ヤマザクラ、ハリギリの赤ちゃんが、急にとおしく思い出されるようにもなった。
日光で得たものは大きい。これか

らも樹の話に耳を傾けていこう。
(菅沼満子)

資料フィルムビデオ委員会

**二〇〇一年世界岳都
都市会議開催に全面協力**

「環境との共生」をテーマに七月八日より開かれた「二〇〇一年世界岳都都市会議」(松本市・二〇〇一年世界岳都都市会議実行委員会主催)の開催に先立ち、記念事業の一つ「H A T J / エコ・アルプス21 in 松本」の歓迎レセプションが七日夜、市内のホテルで盛大に開かれた。
はじめに有賀正松本市長は「世界岳都都市会議は二十一世紀の登山や山の環境を考える絶好の機会」と歓迎の挨拶。続いて大塚博美日本山岳会会長、田部井淳子H A T J代表の祝辞、そして乾杯が終わり歓迎会は本番となった。当日は関連諸団体を交え、山岳会関係者、著名な現役登山家、若手冒険家ら約百二十名が集い、懇親交流を深めた。

八日、二〇〇一年世界岳都都市会議の開催を記念して、市内蟻ヶ崎の緑に囲まれたアルプス山岳館で特別企画展のオープニングセレモニーが午後一時より行われた。梅雨時にもかかわらず好天に恵まれ、真夏のよくな暑い日であったが、有賀松本市

長、大塚会長らの手でテープカット、待望の開館の日を迎えた。

企画展、足立源一郎さん、茨木猪之吉さんのスケッチ、水彩、油彩などの山岳名画数点。大森弘一郎会員による空撮写真「北アルプスを飛ぶ」、パノラマカメラで北アルプスをとらえた作品十九点が並ぶ。また大蔵喜福会員が北米最高峰マッキンリーで十年に及んで実施した気象観測プロジェクトの概要や自然エネルギーの活用に関する諸器具なども展示され、来場者の関心を集めた。

企画展はマッキンリー気象観測プロジェクトを除いて八月八日まで。展示は資料委員会の全面的な協力に



アルプス山岳館特別企画展オープニング

より開催されたものである。

なお、秋の企画展は十月七日より二十八日まで、フィルムビデオ委員会とアルパインフォトビデオクラブの協力により山岳写真展を開催、皇太子殿下、橋本龍太郎元総理の写真も展示する予定。
(羽田栄治)

フィルムビデオ委員会

新規購入ビデオ紹介

映像で楽しむ登山ガイドです。コースをモデルが歩き、おすすめの見望ポイントや注意したい危険個所などをわかりやすく解説しています。
展望登山ガイド 全六巻・六十分

- 一、穂高岳
 - ①上高地→濁沢→奥穂高岳→岳沢
 - ↓上高地②濁沢岳→北穂高岳③上高地→パノラマコース→濁沢④新穂高温泉→西穂高岳
- 二、槍ヶ岳
 - ①中房温泉郷→燕岳→東鎌尾根→槍ヶ岳→槍沢→上高地②新穂高温泉→双六岳→西鎌尾根→槍ヶ岳③上高地→槍沢→天狗原
- 三、白馬岳
 - ①猿倉→大雪溪→白馬三山→唐松岳→八方尾根②大出原→鑓温泉→猿倉③清水岳④白馬岳→白馬大池→榑池自然園
- 四、剣・立山

- ①室堂平→雄山→劔沢往復→仙人池→阿曾原温泉樺平②大日連山③弥陀ヶ原、劔沢、仙人池
- 五、北岳

- ①三伏峠→塩見岳→間ノ岳→北岳
- ↓広河原②広河原→大樺沢→北岳
- ↓八本歯コル→広河原③夜叉神峠
- ↓鳳凰三山→青木鉱泉
- 六、八ヶ岳

- ①観音平→権現岳→赤岳→硫黄岳
- ↓天狗岳→麦草峠②美濃戸→赤岳
- 鉱泉→行者小屋→文三郎道→赤岳
- ③唐沢鉱泉→西天狗岳→東天狗岳
- ④稲子湯→みどり池→本沢温泉→夏沢峠

(山と溪谷社発売 制作・東京福原
フィルム・武藤プロダクション
価格各巻・本体三千五百円)
(羽田栄治)

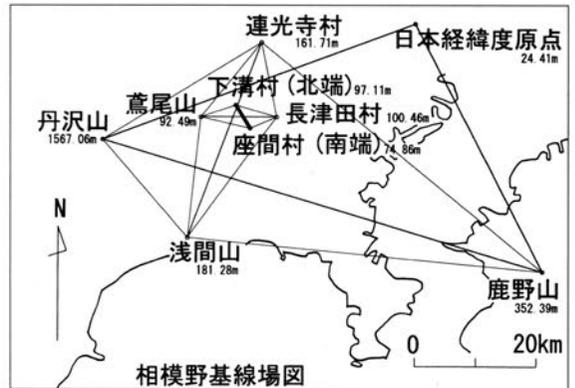
山岳地理クラブ(AGC)

新発足クラブ初の

フィールドワーク相模野基線へ

Alpine Geographical Club(AGC)は山岳地域の地理を実践を通じて学ぶことにより、山登りの楽しみをさらに奥深いものにしようという趣旨で発足した新しい同好会です。

地図を片手に、山岳地形の観察、雪三角点や、水系・分水嶺の確認、雪形や林相、植生の観察などなど実際



に現地を訪れ、見たり聞いたりしながら、またデイスカッションを繰り返しながら、一味違った山の楽しみ方を模索していきたいと考えます。

■一等三角点相模野基線を尋ねる

第一回フィールドワークとして、五月二十六日、地形図作成の基礎である、三角測量の原点とも言える相模野基線を探った。まず基線から得られる最初の三角点、高尾山(点名長津田村、標高一〇〇・四六メートル)から基線南端(点名座間村、標高七四・八六メートル)、中間点、基線北端(点名下溝村、標高九七・一メートル)、そして基線から得られるもう一方の鷲尾山(標高九二・四

九メートル)と五カ所を回り、それぞれの三角点の方位、寸法、位置(GPS計測)を確認した。

高尾山は横浜市、町田市、大和市の境界が接する、東京工業大学裏の小高い丘の飯綱神社(高尾様)の祠の前にある。ここが相模野基線を底辺とする東側の三角形の頂点に当たり、なるほど見晴らしのよいところだ。当時、明治十五年(一八八二年)ころは恐らく何も遮るものがなく、西側の鷲尾山もさぞかしよく見えたことだろう。あいにく曇天で鷲尾山、丹沢方面は霞んで見えなかった。

基線南端は南林間駅より西に真っ直ぐ歩き、何となく坂を登りきったころ、内科医院の玄関の階段下にある。今は、高尾山も鷲尾山も望むべくもないが、わずかに稜線上にあることが感じられた。基線中間点は基線南端より北へ向かい、辰街道の西側住宅街の路上、マンホール状の蓋の中にあつた。中間点の必要性、存在の意味など今後の課題となつた。

基線北端は麻溝中学、西側の一角にきちんと整備されて、保護石も整っており、説明板も分かりやすい。鷲尾山は厚木郊外の鷲尾山頂にあるのかと思いきや、実際は中津川と相模川にはさまれた中津工業団地の一角、中津小学校横の道路上に、四つの保護石に囲まれて、しっかりと存

在していた。

相模野基線から順次三角点を拡大してより大きな三角網の基線となる丹沢山の五万図が完成したことを偲びながら、地形図のありがたさを再認識した一日であつた。

参加者七名。AGCへの問合せは代表・北野忠彦(TEL・〇九〇・三〇四六・一一八九)へ。同好会ホームページにも掲載予定。(近藤善則)

山げらの会

六日町周辺・歩くスキーツアー

山げらの会主催の一般公募によるスキーツアーが四月二十〜二十二日

北アルプス白馬連峰

ゆっくりとした登山をお楽しみください。

素泊り、山行中の継続
駐車もできます。最寄駅、
登山口など、送迎します。
スケッチ、写真撮影など
四季折々の白馬の名所
をご案内いたします。

宿泊料金(1泊2食):
9500円
格安コース:7500円より

和牛料理の宿



長野県北安曇郡白馬村神城22114-17
TEL (0261) 75-2292(代)
FAX (0261) 75-3284

の二泊三日、六日町温泉国際ユースホステルを宿に開催された。地元の方を含めて総勢十四名、早春の魚沼周辺での歩くスキーを楽しんだ。三月に山げらの会のスキーツアーを描いた宿に行つたのを縁に、今回参加してみた。

残雪に咲く桜、ブナの新緑、真っ白な山々、山菜料理と地酒と温泉(湯質最良、一晚中入浴可)の楽しいスキーツアーだった。

第一日は前夜祭、北は宮城県、西は福井県や愛知県から集合、地酒の八海山で盛り上がった。

第二日目、奥只見の銀山平へ向かうマイクロボスの車窓から見たのどかな里の風景、残雪とブナの新緑(ブナの峰走り)の美しさに感動する。シルバラインの長いトンネルを抜けると一変して、雪の壁二、三メートルの広大な白銀の世界が開けた。早速スキーを着け、午前中は北ノ又左岸、午後は右岸の広い銀山平をゆつくり歩いて、荒沢岳直下の沢まで入りカモシカに出会った。イワウチワにも感激。まだ固いつぼみの猫柳を震わせて流れる北ノ又川、真っ白な越後駒岳や中ノ岳、黒い岩肌の荒沢岳を眺めながら歩き、滑って春らしい一日を楽しんだ。

昼食は北ノ又川右岸の雪の上での地元の方による揚げたて、アツアツ

の山菜天ぷらと豚汁、八海山とワインという豪華なメニュー。夜は地元の名酒、越乃寒梅、久保田の碧寿、八海山を堪能、山げらの会恒例の抹茶で大いに盛り上がった。

第三日は、藪椿やマンサク、イワカガミの花々に、春の息吹きを感じながら残雪の魚沼スカイラインを八箇峠へ。青空の下、峠からは魚沼一帯、金城山、巻機山、八海山と上越の眺望を満喫。下りは誰もいないミナミスキー場を思い思いの格好で滑降。思いきり長い斜面を滑るのも上達のコツと心得た。

午後は巻機山麓へ移動、清水集落の手前から桜坂へ。残雪に咲くピンクの桜が美しく、真っ白な山容と屹立する天狗岩の眺めは壮観。

この二泊三日は誰もいない自然の中を歩き、滑り、花を愛で、山を眺め、歩くスキーを十二分に堪能した。

最後に幹事の山本良子会員、歩くスキーに造詣の深いご主人の兼太郎氏をはじめ、企画から参加してくださったYHの内山所長、越後支部の吉田理一会員と地元の方々のおかげで協力に感謝申し上げます。

六月の山げら総会で来年も六日町に決まったとのこと、来シーズンも皆さんもぜひ参加してみてください。満足することを請ひます。

(福島支部 江花俊和)

JAC 支部だより



全国各地の支部から、独自の活動状況をレポートします。

宮城支部

賑やかに二〇〇一年度 東北地区集会

宮城支部主管による「東北地区集会」が六月二、三日にかけて、仙台市太白区の茂庭荘を会場に開催された。参加者九十三人中、東北地区の会員は六十三人。その他は北は北海道、南は静岡まで関東地区を中心とした会員諸氏である。

集会初日には、この日還暦を迎えた柴崎会員による「大東岳と二口谷」と題した記念講演が行われた。

講演では、大東岳は大和朝廷の東進によって名づけられた各地の東岳の中で、最も東に位置する山であり「おおあずまがだけ」が本来の呼称であることや、伊達政宗公が仙台築城

のおり、中国の故事にならって、仙台市内に太白山を配し、大東岳などの二口山地を崑崙山脈に見立てたといった興味深い話が紹介された。また、大東岳の成因、植生、さらに石橋や大岩壁といった二口の特徴ある景観について、スライドによる解説も行われた。

講演終了後、各支部の支部長らに



東北地区集会に参加の93名で記念撮影

よる地区懇談会が開かれ、各地区の近況や地区集会の圏域拡大などについて、熱心な討論が行われた。

なお、席上、次回の開催は岩手支部の担当によることが満場一致で承認された。

夕方からの懇親会は、いくばくかの歓談の後、当支部の佐藤義正会員の民謡を皮切りに、北海道支部によるソーラン節の踊りなども披露され、各支部からいただいた銘酒の数々ともあいまって、翌日の登山は大丈夫かと思われるほどの大宴会が繰り広げられた。

二日目の登山は、入梅直前の好天の中、約八十五名の大集団での登山となった。朝六時三十分に着を発ち、登山口の秋保ビジターセンター前で記念撮影をした後、七時三十分に着石沢沿いのコースを選んで登山を開始した。エゾハルゼミが大合唱する林の中、何箇所かの水場で水を補給し、通称「鼻こすり」と呼ばれる急坂も難なくこなして、十一時三十分には全員が頂上に立った。途中、根曲り竹のタケノコやコシアブラの新芽といった山の幸を得る人もいて、各自が思い思いに大東岳を楽しんだように感じられた。幾人かの参加者からは、「初夏の東北の山を満喫した」との感想も寄せられ、準備を担った支部会員一同、安堵した次第で

ある。

最後に、宮城支部ではこの四月に行われた支部総会において、六年間支部長であった柴崎徹会員の後任として千田早苗会員(七二二番)を新支部長に、佐々木郁男会員(六〇一五番)を副支部長に選出したことを報告する。
(林田健治)

岐阜支部

トルコ第三の山・カチカールに登頂

今年で八回目となる海外山行は、一昨年来行っているシルクロード探訪の一環として、トルコ探訪とカチカール山(三九三二メートル)登山となった。一行十三名は六月十九日、成田を発ちイスタンブール、アンカラを経てトルコ東部最大の町、シルクロードの入口である標高二〇〇〇メートルのエルズルムに降り立った。早速、空港で迎える地元ガイドに案内されながら、四輪駆動車で黒海に近いユスワリの町を経由して二〇〇キロ先にあるヤイラという村の口ツジに入る。標高二〇五〇メートルながら日差しが強く、日中は汗ばむほどの真夏を思わせる暑さだ。
翌日、標高二八〇〇メートルのキャンプ地までの八キロを、地元で雇った馬やロバを使って荷上げしながら

らトレッキングを楽しむ。この間、道の両側には筆舌に尽くしがたい百花繚乱の牧草地が広がっていて、疲れ知らずの時間が過ぎてゆく。

好天に恵まれたカチカール山アタックの日、アタック班四名はキャンプ地を五時前に出発。三十分ほどで雪渓に取り付き、最初のプラトを経てデニスルーレイクの淵に出る。下流の村の水源になっているという標高三三〇〇メートルにある大きな火口湖にも、かすかに春の訪れを感じさせる色の変化が認められた。

いったん雪原に下るところからアンザイレンでトレイル。初めて目指す本峰が顔を出す。雪崩に細心の注意をはらいながら、標高差五〇〇メートルの急斜面を一気に稜線へ取り付く。岩と残雪のミックスルートのナイフリッジをつめて三九三二メートルの山頂に立つ。零時十分、登り始めて七時間余り。黒海を北に望む大展望を満喫した。

ガイドのセルベットによれば、今年最初の登頂であり、また日本人が登ったという記憶もない、と言っていた。早速山頂の雪の下に埋もれた記帳にサインする。アメリカやイギリスからの登山者が多いようだ。
下山は往路を引き返し、出発して十三時間後、キャンプ地に戻った。カチカールは標高以上に雪の多さが

目立つ山、という印象だった。

エルズルムに入る。ここにはかつてのシルクロードを通るアジアハイウェイが走り、イスタンブールまで一六〇〇キロ、トルコの東の入口になっている。街角には敬虔なイスラム信徒や、今も多く遊牧騎馬民族の習慣などが見受けられ、同じモンゴリアンにルーツをもつ身近な民族としての親しみすら感じた。

その後、シルクロードをさらに西へ。アナトリア高原中南部のカツパドキアを経て、アジアとヨーロッパの接点イスタンブールを観光し、帰国の途に就いた。十二日間の旅であった。
(藤井法道)

神々の座のふもとをのんびり歩く
ネパール・ヒマラヤ・トレッキング9日間
 関空(大阪)発着チャーター便利用
 日本エアシステムの直行便で行く
 出発日 ①10/29②11/2③11/5④11/9⑤11/16
 ⑥12/21⑦12/24⑧12/28⑨3/15⑩3/22

国土交通大臣登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員 ②JATA加盟
アルパインサービス株式会社
 〒105-0003 東京都港区西新橋1-12-1 西新橋1森ビル2F ☎03-3503-1911
 大阪/☎06-6444-3033 名古屋/☎052-581-3211 福岡/☎092-715-1557

東西南北

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、一点につき一〇〇〇字程度でお願いします)



イラスト・宇都木慎一

瑞牆山麓植樹祭会場見学記

長沢 洋

中央道須玉インターから増富温泉を経て金山平に向かう県道は、車で瑞牆山や金峰山に向かうとき通る道で、私もこの十年足繁く通った道である。そしてこの十年は、この道の激変した十年でもあった。

最も大きかったのは塩川をせき止めて造られたダムによる変化だろう。本谷川の崖っぷちの道を対向車を気にしながら運転することはなくなつた。信州峠も近くなつた。

クリスタルラインと呼ばれるのは、遠く新潟からやってくる送電専用の大鉄塔(これが各地の山岳景観を著しく損なつたのを知る方は多いだろう)建設道路を既存の道とつなげた、県北部山岳地帯を横断する観光林道

で、これが通過する、黒森から金山平へ続く道もいつしか全舗装となつた。

クリスタルラインの整備が終わり、塩川ダムも竣工した。しかし、その後このあたりの道路が通るたびによくなっているように感じたのは、今回の植樹祭がらみだつたのだから。

今年の五月二十日に催された第十二回全国植樹祭の会場をその一週間後に見に行った。久しぶりに通る県道は新たに橋やトンネルで整備され、さらに運転が楽になつた。増富温泉を抜けた本谷川の川面すれすれに続く車道は溪流と樹木の実に美しいところ。この道もいつの間にかずいぶん拡幅されている。同行のJAC会員氏が「車道を広げる余裕があるなら、歩道をこそ整備すべきである」と言う。全くその通り。歩いて

こそ味わえる景色である。山登りに車を使つてばかりの私が言うのは面映ゆいが、もう車の便利も程ほどにせねばと思う。

ガードレールが新しい。道路の白線も新しい。カーブミラーには屋根まで付いている。日曜日とあつて、瑞牆山荘の前にはたくさんさんの車。瑞牆山荘から少し黒森側へ下つたところから植樹祭会場への道が分かれる。そこからさらに道はよくなる。

これなら大型バスでも通行にいきさかの支障もない。何という立派な道だろう。道の脇には木材チップが敷き詰められ、遊歩道あり、東屋あり、富士見平への新道までできている。森を縫つて続くハイウエーの先に現れたのは瑞牆山を眼前に望む巨大な空間だつた。ニュースでは、祭り当日、ここに七千五百人が集まつたという。ショッピングセンターのそのような駐車場。何万人でも入れるだろう広大な芝の広場。山梨県のホームページを見ると、樹木の伐採が不要な県有林の無立木地のみを利用したとある。よくもこんな広大な無立木地がうまい具合にあつたものだ。「甲斐」の名をやつと入れてもらった「秩父多摩甲斐国立公園」のここは特別地域のはず。一木一草とておろそかに扱つてはならないはず。そこに、あろうことか「植樹祭」とい

う名目でこれだけの施設が作られているのである。考えれば考えるほど頭が痛くなる。

昭和の始め、この北にある不動沢沿いに既に造られていた林道を嘆じて、原全教は書いていた。

「これがあたりの森林全滅の先驅であると思へば、そらに寂しくなつてしまふ。この邊は甲斐の國として、最も多角的な、そして整備した自然美の地であるから、當局はなにを措いても保護の天職を思はなければならぬ」(奥秩父・續篇)

荒沢奥壁の小谷部全助

日本山岳会青年部・宗像 充

「針ノ木より白馬迄、南北に延々八里。西方黒部を距て、劍の怪魁に對峙して秀麗な頂と物凄い胸壁とを併せ連ねる後立山の山波は、一度訪れた者の脳裡に深く刻まれて、容易に忘れる事の出来ぬ大きな魅惑となる。其のほぼ中央に當つてこの連脈の代表とも云はるべき鹿島槍が、あの懐しい二つの頂を大空に高く、立派な岩壁をいだいてもつとも奥深く聳立して居るのだ。」(「針葉樹」第八号) 二〇〇一年三月の鹿島槍もまた、当時と同じように僕には大きな魅惑であつた。

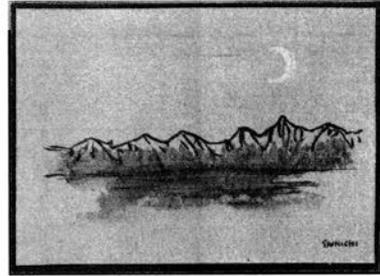


イラスト 宇都木慎一

俳句 初夏の後立

勝田房治

ぶな若葉白馬山塊ひかり立つ
雲深く往く索道に朴ひらく
雪形の消えし五竜に吾立てり
ピッケルを挿し雪尾根に汗ぬぐふ
明け易し双耳削ぎ立つ鹿島槍
雷鳥に偃松を搏つ風蟬まず
梅雨霧を裂く雷鳥のこゑ近き
梅雨冷えの毛布引き合ふ山の宿
三光鳥啼き澄む尾根を降りけり

小谷部全助は大学山岳部よりもむしろ中高年以上の社会人クライマーに知名度がある。それは彼が戦前の人であるからというよりも、むしろ彼の掲げたパリエーション主義が、大学山岳部のような組織力もなく、また時間も取りにくい社会人にとつて、日本の山岳において先鋭的なクライミングを実践する上での一つの指標となったからであるといえる。

確かに荒沢奥壁の登攀記録を垣間見れば、彼と森川真三郎が卓越したクライマーであったことは疑う余地もない。当時の登攀具は、二〇メートルザイル二、ハンマー二、ピトン十、カラビナ四、捨縄一ですべてであり、むろんアイゼンに先爪はなく、確保は肩がらみ、落ちれば助からないほとんどフリーソロのクライミングである。彼らはこの貧弱な(当時はこれが当たり前だったろうが)装備とともに、現在においても手応えのある雪稜ルートである北稜を、天狗の鼻から一ピバークのすえ完登し、同シーズンの北岳バットレス四尾根冬期初登の記録とともに、多くのクライマーに今なお影響を与え続けている。

しかしまた、彼は今日でいうところのアルパインクライミングの先駆者として有名であるだけでなく、その記録をじっくりと見返せば、彼が

優れたリーダーであり、オーガナイザーであったことも見て取れる。この合宿は単に初登のみが目的であったのではなく、一九三七年の三月十五日に神城を出発し、四月一日に再び神城に戻ってくるまで、遠見尾根C1で下級生とともにスキートの練習をした後、カクネ里を横断し、天狗の鼻に登り返し、荒沢奥壁の積雪期初登を成功させるという内容であった。参加人数は七名であり、決して多いわけではなく、しかもこの間、浪高生の遭難救助に協力し、サポーター隊を五龍岳に立たせてもいる。小谷部の念頭には来るべきヒマラヤ遠征があったはずであり、この合宿はそれを明確に意識したポラーメソッドでもあった。それは彼が何度も繰り返すように、

「吾々一橋山岳部は穂高洞沢における全員合宿に、或ひは新しい形式による冬の北岳行等において、個人的に団体的に貴重な経験を積んだ。しかしして世を挙げてヒマラヤ謳歌の潮流にも拘らず、黙々として登攀能力、団体精神の涵養に努め、内容薄弱なるジャーナリズムを排して、人と人との和親の裡に、超然たる大自然を讚美し、かつ詠嘆のみによる退歩を警戒しつつ鋭意アルピニズムの末流を奉じて来た次第であった。」

という適切な時代認識とそれへの

異議申したての裏に、彼がボソッと、「勿論ヒマラヤ遠征が簡単に実行出来れば問題はないのだが」とつぶやいている言葉に如実に示されている。鹿島での合宿が決まる前に想定していた穂高の合宿に向けての彼の「より高峻なる海外遠征のままならぬ憂さを晴らすと共に」という言葉は彼の偽るところない本音であったであろう。彼は登山界の中で自分と一橋山岳部が置かれた状況を適切に認識し、それに甘んじるだけでなく、「アルピニズムの末流」を自称するだけ謙虚な野心家であるとともに、自己の果たすべき役割を創造する事のできる将来を見据えた実務家であつた。

山旅総合カタログご請求下さい(無料)

キリマンジャロ登頂とサファリ 11日間
 出発日: 12/3, 12/24, 2002/2/8
 料金: 545,000円より(東京発)
 できるだけ確実に登頂していたたく為に高度順応日を設け、ゆっくりと歩きます。アムステルダム経由でキリマンジャロ空港へ直行するのでコンパクトな日程です。

オリジナルプランOK
 台湾: 玉山、キナバル山、キリマンジャロなど海外の名峰へ。気の合うお仲間と行って見ませんか?
 お見積もり・資料請求は無料です。お気軽にお問合せ下さい。

アミューストラベル株式会社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 1-22-2 新宿サンエビルB1
 電話 03(5325)1256 FAX 03(5325)1258

大阪 06(6456)3366 名古屋 052(588)5617
 広島 082(502)2525 福岡 092(414)5566

Sanken Life

研究テーマは「ミニ水力発電」

管理人 木村太郎・弥生

「(社)日本山岳会上高地山岳研究所」
治山道沿いの看板には山研の正式名
がそう書いてあります。その看板を
見た一般観光客の反応を、時々山研

のテラスから見るがあります。

この施設は何だろうと思って近寄
ってくる人たちが、研究所と書いて
あるのを目にした途端、Uターンし
て足早に帰ってしまいます。上高地
にある施設の多くは、トイレを貸し
てほしいと頼まれることが頻繁にあ
るようですが、山研にトイレを借り
にくる人が少ないのは、あの看板の
効果かもしれません。

また、タウンページで調べたのか、
「山岳地域の雪崩のデータと対策に

についてお聞きしたい……」などと
いう質問が電話で寄せられること
もあります。そんな時はちょっと苦笑
いしながら、日本山岳会事務局の電
話番号をお伝えします。

山研の現在の研究テーマは、ご存
知のとおり「ミニ水力発電」。山研裏
の沢の水を拝借して、地下照明の電
力として活用しています。山と沢が
持つ力強さを山研の照明の中に見る
ことができます。研究所の看板に負
けない、自慢できる研究材料です。

たといえるのではなからうか。

それはこの荒沢行に至る経緯にも
見て取れる。先に述べたように、この
計画は徳沢から奥穂にACを伸ばし、
滝谷の登攀を狙う計画の代替案であ
った。しかし、この計画は、「家事の
都合とか体の調子が悪いとか色々な
理由で不参加を申し出るものが続出
し」、中止になったのであった。しか
し代替として出てきた案において荒
沢奥壁の初登を成功させる裏には、
前年、前々年の後立山通い、偵察、
そして東尾根、天狗尾根の積雪期登
攀と膨大な積み重ねがあり、それは
綿密な記録、地域研究として、『針葉
樹』第八号に収められている。彼の
北稜の登攀の成功はこのようなクラ
ブとしての基礎研究に裏付けられた
ものであり、それを実際の登攀に結
びつけるだけの明確なヴィジョンと
行動力を彼は持っていたと言えるの
かもしれない。

だからといって、僕は彼を尊敬し
ているわけでもないし、崇拜してい
るわけでもない。だいたいが会った
ことはない。彼はバットレスの初登
の時、ピッケルを落つことし、北稜
の初登の時、ツェルトを落つことし、
森川は行動食を忘れていた。これを
伝統と呼ぶなら、間違いなく、それ
は今の僕にも伝わっていて、そうい
う人間臭いところが、実は僕は好き

なのではある。僕は大学山岳部出身
なので大学山岳部に対する愛着はあ
るのだが、だからといって、それ以
前に一人の登山者であると思ってい
る。そう考えるとき、ただ自分の置
かれた時代的、環境的な状況を嘆く
だけでなく、そのなかで自分がどれ
だけの役割を果たせるかを認識し、
そして、なおかつ、そこから新境地
を開いていった彼の態度は今におい
ても見習うべきところがあると思っ
ている。

いうまでもなく、部員不足や上級
生に教えてくれる人がいない、金が
ない、みんなの予定が合わない、とい
った問題は今においても変わらない
だろう。しかし、ヒマラヤもしくは
海外に行く機会がないということは
少なくとも大学生にとってはもはや
言うことはできない。海外に行く行
かないは単なる選択の問題で、海外
であれ、国内であれ、どれだけ充実
した登山を展開できるかが、それぞ
れの登山者に問われている。決まっ
た定食の「クラブ活動」などちゃん
ちゃらおかし。

しかし、僕自身は、先人の積み重
ねを『アイスクライミング』や『冬
期クライミング』といったような凝
縮された安易な方法から入手し、し
かも戦前の水準にすら追いつくこと
は出来なかった。彼が旧制大学の最

終学年で以上の実績を築いていたと
するなら、クライミング歴六年目の
僕は完敗である。しかしまた、時間
をおけば、自分の中でその山行の評
価も幾分か変わる。ましてや昔の
人と競争する気もない。おそらく戦
前においても、そして大学二年の時
も四年のときも、そして今回も鹿島
槍はその美しい姿を見せてくれたに
違いない。それだけで今は十分な気
持ちである。

敢えて言おう「小谷部全助の時代
は終わった」

しかし、また常に僕は自分に問い
かけた。「だったらおまえは小谷部
の言葉に言い返せるだけのことをや
っているのか」

そして僕がアルピニストであると
するなら、僕は傍流でありつつける。

*附記

宗像は二〇〇一年三月十八日から
二十一日にかけて鹿島槍ヶ岳に入山
鹿島槍北壁の最難ルート「氷のリボ
ン」を登攀し、継続して荒沢奥壁・
北稜にとりついた。荒沢奥壁ではパ
ートナーが墜落して足首を負傷した
ため敗退した。荒沢奥壁の北稜は一
橋大学(旧・東京商大)山岳部の宗
像の先輩にあたる小谷部全助と森川
真三郎が一九三七年三月に初登した
ルートである。(松原尚之記)

図書紹介



イラスト 蜂谷益雄

後藤三男・著

『安曇野紀行』

安曇野といえは、日本のアルピニストの誰もが爽やかで深い懐かしさを想う、心のふるさとと感じるであろう。

ここに、ひとりの画家がいて、安曇野をこよなく愛して、穏やかで美しい絵を描き続けている。春夏秋冬通い詰めて描き通した。春は野に花が咲き、夏は山に白い雲が沸き立ち、秋には一面黄紅色に染まり、冬は山が一番美しく見える。

それらの絵が集大成された画集が『安曇野紀行』である。開いてみるとわれわれの安曇野に対するイメージと重なり、懐かしさが増幅される。作者、後藤三男氏は本会会員で、日本山岳画協会会員でもある。この

画集には安曇野の絵が私の数えたとこころで五十五点あり、他に、山の絵を中心に百十点が納められている。

(松丸秀夫)

二〇〇一年三月 信毎書籍出版セ
ンター発行 一〇四ページ 六千円

石村揚正・著

『山旅友』

関西登山案内書の老舗でもある版元から、本会会員の「紀行文集」が上梓された。中西社長が直接編集した、道楽半分ではない意気込みが感じられる出来映えである。その「目次」第一部「友旅山」と書題が差し替えられ、プロの目は鋭い。

「パラグアイの山と森を訪ねて」チリとペルーへの「独り旅」の南米の二章だけで、本書の三分の一を占める。それがまた奇想天外で、劇的な展開が続く。「事実には小説より奇なる事」警見をお勧めする。ただし「一ページの「初出」が「JAC会報五四号」は「京都支部便り」の誤記。

「望郷・満州への旅」は長年の付き合いでも初めて知る少年時代の苦労話だった。「ヒマラヤン・グリーン・クラブの植林行」「ミニヤ・コンカ周辺の踏査行(横断山脈研究会)」など、定年退職後の活躍には、著者と同じシニア世代としてうれい情報

告ではある。

第二部「登高」「追悼」「雑感」などは、京都山岳会技術研究部初期の記録抄なのだが、「重箱の隅をついたような初登攀」とはいえ、時効にはならない事実の重みが、今もなお現存するのである。

部会報はとかく散逸しやすいが、単行本なら登攀史として寿命も延びる。本書に投じられた意味は高い。

ナカニシヤ出版といえは、山の本屋と誤解されている。京都大学正門前に社屋を構え、京大芸術関係書で用達であり、東京の出版社がしり込みした採算度外視の登山文庫発行元として「知る人ぞ知る」存在である。本会創立百周年記念刊行の「新日本山岳誌」を引き受ける大英断をされたのが、ほかならぬ中西健夫氏なのである。

(阿部恒夫)

二〇〇一年六月 ナカニシヤ出版
発行 二一七ページ 二千二百円

鹿野勝彦・著

『シエルパ』

『ヒマラヤ高地民族の二十世紀』

著者は、登山家の描く「シエルパ」と人類学者の目で見るシエルパという民族集団を、双方の立場から書いたとしているが(本書では高所ポー

ターやトレッキングガイドの意で用いるときはカックコ付きで使っている)、実は断然人類学的考察に重みが置かれている。登山仲間としての親密感を抱いてはいても、科学者の視点でものを見ているのだ。

本書はまず「素朴な山岳民族シエルパ」とは押し付けられた虚像だという問題提起から始まり、チベットから移住した集団がソル・クンプ地方に定住する実態を詳述する。次いで著者が実態調査をしたロールワリン谷でのシエルパ村の巧みな移動農牧の体系が語られるが、実録だけにその迫力ある描写には引き込まれるし、山地での合理的な生活形態にはうならされるところもあり、また下流のソル地方との比較も合わせて、シエルパ社会の原型がよく分かる。

さらに、生産力の低い山地に暮らすシエルパ族が、ナンパ・ラ越えの交易を活発に行うしたたかな生き様に触れ、交易路の拡大に伴ってダージリンに進出するところから、ヒマラヤの登山探検に深く係わりあつていく「シエルパ」の誕生への経緯を説く。

その勇敢で忠実な活躍は周知のところだが、数々の美談の陰には、自立して貧困から脱却するしかないという社会存立の原理がある。そもそも厳しいヒマラヤ越えの交易など、

素朴なだけではやり抜けるものではないという逆説的本質を衝いているのである。この厳しさに耐えられたかきがあつてこそ、やがてソルクンプ地方の観光地化が進めば、自ら選択して観光産業の担い手となるし、カトマンズへ進出してトレッキング用品生産工場の企業家などに变身していく。

その中でなお、民族集団としてのアイデンティティーを保つために、培った経済力を投じて僧院や祭礼に寄進したり、民族センターを設立するなど、文化的活動も活発だという。その昔は、土地など資源の細分化を避けるために、僧侶となる余剰人員が増えて大僧院が成立していたというのだが、信仰心より社会制度から発生する現象がいまや寄進行為に変化する、その変遷は象徴的である。

表題で二十世紀を区切り、百年余の劇的な民族史の帰結を描いているわけだが、チベット文化の伝統も世代交代の中で変化し、シェルパ族という民族集団のありようも流動化の過程にあるようだ。だが、自らの選択で鮮やかに変身してきた過去を見れば、次世紀も積極的対応をしていくだろうというのが、著者の願いのように見受けられる。(倉知 敬)

二〇〇一年五月 茗溪堂発行 二八六ページ 六千五百円

図書受入報告 (2001年6月)

著者	書名	ページ・大きさ	出版社	出版年	寄贈/購入別
坂田恒衛	ユーラシア秘境の山旅:コーカサス編(ユーラシア・ブックレット No.12)	63pp/21cm	東洋書店	2001	中垣淑子氏寄贈
菊地俊朗	山の社会学(文春新書 No.175)	252pp/18cm	文藝春秋	2001	著者寄贈
信濃毎日新聞社(編)	山ろく清談(1996-2000)	285pp/22cm	恒文社	2001	出版社寄贈
田中哲郎	アルプス回想:田中哲郎写真集My Alps Trekkings	91pp/19x27cm	山と溪谷社	1992	田中栄子氏寄贈
伊藤憲治他(編)	リュックサック第13号	471pp/21cm	早稲田大学山岳部	2001	発行者寄贈
久新大四郎他(編)	山の歌:早稲田大学山岳部につたわる歌	36pp/21cm	稲門山岳会	2001	発行者寄贈
早稲田大学岳友会(編)	山と安曇野:第9回山小舎カルチャー報告	65pp/30cm	早稲田大学岳友会	2001	発行者寄贈
ハケット(著)栗山喬之(訳)	高山病:ふせぎ方・なおし方[第3刷]	85pp/18cm	山羊社	1994	小守利雄氏寄贈
日本山岳協会・新潟県山岳協会(編)	中国・新疆ウイグル自治区トモルティ峰登山隊2000	68pp/26cm	日本山岳協会・新潟県山岳協会	2000	発行者寄贈
佐藤勉(編著)	帝釈山脈の沢	115pp/21cm	白山書房	2001	出版社寄贈
岩崎元郎	はじめての山:岩崎元郎の日本百名山	142pp/21cm	弘済出版社	2001	小倉厚氏寄贈
北海道山岳連盟(編)	サミット:北の大地から世界最高峰を極める!	163pp/26cm	北海道エベレスト登山実行委員会	2001	発行者寄贈
佐藤れい子	越後百名山:新潟の山をめぐる登山紀行	337pp/21cm	新潟日報事業社	2001	著者寄贈
水野勉	アルピニストたちの神話	190pp/26cm	水野勉(私家版)	2000	著者寄贈
東北大学山の会有志(編)	いそぎん:洲崎幸久君追悼文集	66pp/30cm	東北大学山の会有志	2001	川俣俊一氏寄贈
Jan Kielkowski	Makalu Himal: Monograph-Guide-Chronicle	126pp/21cm	Explo	2001	著者寄贈

会務報告

六月理事会

日時 六月十三日(水)十八時三十分
 ～二十一時四十分

場所 日本山岳協会議室

〔出席者〕 大塚会長、長尾、芳賀、村井各副会長、西村、今村、坂井、高原、朴元、高遠、宮下、鈴木、黒川、大野、中村、藤本、河西、鳥居、小川各理事、内田、古市各監事、平林、宮崎、宇田川、鯉坂各常任評議員

〔委任〕 松原理事

◎会議に先立ち大塚会長より挨拶があった。

今年度、創立百周年記念事業企画プロジェクト・メンバー(リーダー)平林常任評議員)を中心に、企画デザインをまとめた。中国の山に偵察隊を出したい(来年度本隊を予定)。

その他、従来からの三点「登山の活性化」「中高年登山への対応」「自然保護」は重点課題として継続する。理事会は審議、報告を効率よく運営し、フリートーキングの時間を多くとりたい。

〔審議事項〕

一、二〇〇一年世界岳都市会議開催記念・アルプス山岳館特別企画展の実施内容等について(鈴木)

標記につき(協力実施については三月理事会で承認済)説明があった。概要は、

①「山と環境」をメインテーマにした絵画と写真の展覧会、また科学的な目で山を見つめる二つの研究プロジェクト(自然エネルギー発電、マツキンリー気象観測)の展示と講演。

②夏の特別展(会期七月七日～八月八日)

③秋の特別展(会期十月七日～二十一日)

なお、松本市からの業務委託金は四百二十万円で決定した。(承認)

二、二〇〇一年会員名簿の作成について(西村)

本年十一月月中旬の完成予定。名簿への記載事項は二〇〇一年十月一日現在、事務局または総務委員会担当者が知り得たものとする。版型は従来のA5判よりB5判に変更。広告の募集は、前回の参画企業を中心にして、理事会の協力の下で実施する。なお会報七、九月号で会員に対し住所変更届けの提出を呼びかける。(承認)

〔報告事項〕

一、チベットの未踏峰「シマカンリ(七二〇〇メートル)登山」(大塚会長)

三月中旬、中国登山協会より打診があり、検討していた。青年部、高所登山研究の両委員会を中心に計画

を進める。本年秋に偵察隊、来年本隊を出す予定。

二、二〇〇四年の全国支部懇談会の開催支部(西村)

五月十九日開催の支部長会議において、熊本支部より申し出があり決定した。(二〇〇一年石川、二〇〇二年広島、二〇〇三年青森の各支部での開催は決定済)

三、秩父宮記念山岳賞(長尾副会長)第四回会員アンケート結果をみて

も、「選考基準がわからない」など様々な意見がある。創設四年目でまだいろいろと見直すことも必要と考えている。

四、年次晩餐会の企画(展示)につ

いて・その1(西村)

本年の晩餐会(十二月一日、新高輪プリンスホテルで開催予定)の展示企画は科学委員会による展示(「ミニ水力発電」等)と、フィルム・ビデオ委員会による当会所有の「ビデオ映画会」を予定している。

五、行事、催し等参加報告

山梨支部により五月二十六、二十七日開催された「木暮碑前祭」に出席した河西理事より報告があった。六、ヒマラヤのゴミ問題の対処について(高原)

マスコミでヒマラヤのゴミ問題を取上げると、必ずメールで抗議が当会宛にくる(抗議者は必ずしも事実

新ハイキング選書

◀第4巻▶ 一等三角点のすべて

改定第2版 多摩雪雄編 B6判・350頁・定価1995円(税込)
 都道府県別に一等三角点を地図上に明示。一等三角点の詳細な解説、一等三角点研究の決定版。

◀第9巻▶ 一等三角点の名山100

第3刷 B6判・336頁・定価1632円(税込)
 100山すべてコース図と写真入りで実用性が高い。

◀第18巻▶ 一等三角点の名山と秘境

改定第2版 A5判・340頁・定価1837円(税込)
 全国一等三角点の地方別の配置図と全国の一等三角点の総覧が付いている。一等の山100座を紹介。地図が大きく見易い。

◀第20巻▶ 一等三角点の山々

A5判・310頁・定価1680円(税込)
 一等三角点の山シリーズ。280山の総索引と高度順一等三角点100座が付いている。80座を紹介。

第9巻、第18巻、第20巻のガイドの山は重複しません。

新ハイキングの見本誌はハガキで申し込みれば無料で送付します。

新ハイキング社 〒114-0023 東京都北区滝野川7-6-13
 電話・FAX 03(3915)8110

を把握していない)。当会として、ゴミ問題に対する見解をまとめておいてはどうかとの意見があった。それに対して議論が交わされた結果、見解をまとめておき、場合によっては公表することとした。

七、資料等使用、名義後援の許可願い(西村)

以下の案件に対し承認(資料添付)

- ① ラックプロ(株)(富山テレビ協力制作会社)より、「BBTスペシャル・堀田弥一氏の登山家人生をたどるドキュメンタリー」(放映日七月十六日)に素材として使用する「聖峰ヒマラヤ ナンダ・コット」フィルム(VTR)
- ② 日本の森と自然を守る全国連絡会(会長・八木健三)より「第十四回日本森と自然を守る全国連絡会(十月十三日より札幌市で開催)への名義後援
- ③ (株)日展より、環境省・上高地ビジターセンター等に設置する「利用者ガイドシステム」のデータベースとして、志賀重昂「日本風景論」、及び「河童橋上のウエストン夫妻の写真」の撮影
- ④ (株)本の泉社より、吉尾弘遺稿集「垂直の星」(仮題)へ『山岳』第六二年より「ドリリュの北壁」の転載
- ⑤ (株)中央公論新社より、中公新書『登山の誕生』小泉武栄著(六月二十五

日刊行予定)で、「近代登山の先駆者たち」一五ページ(劔岳において発見された錫杖および捨身)、四三ページ(木暮理太郎と田部重治)の転載

⑥ 立山連峰の自然を守る会(理事長 河野昭一)より、「第五回日本自然保護会議(九月開催)への名義後援

八、委員会報告

財務委員会・村井副会長

五年度の会計報告。会員数が六〇二〇名と六千の大台を超えた。

総務委員会・高原

委員会・同好会連絡会議を七月四日(水)十九時より当会会議室で開催予定。

① 『山』六月号は「新生した日本山岳会青年部 松原尚之」がトップ。

② 原稿の締め切りは前の月の十日七月号(七月二十日発行)だと六月十日が締め切り日となる。

図書委員会・宮下

カードケース処分は承諾した。ただし、カードは一部歴史的な面より保管し、コピーしたうえで処分する。

自然保護委員会・河西

一九九九年のインターハイ登山競技会場だった早池峰山で、高山植物に被害があったと指摘した問題に対し、岩手県側は五月二十九日付、知事、教育長名で「そのような事実はなかった」との回答があった。今年

の県のインターハイ会場を、早池峰山より岩手山に移すことは評価できるが、これからも早池峰山で競技することのないよう求めたい。

九、その他

① 『山岳』の復刻版の「復刻」の解釈の違いから一部の方よりクレームがあったとのこと(高遠理事)だが、理解を求めてもらいたい。

② 恒例のビールパーティーを九月一日十七時より本会で予定。会費は二千円。主催は総務委員会。

■会員異動

物故 星 勝男(四〇五二) 01・6・17 退会

青木 哲郎(一一二四六) 竹永十三生(二三一四〇)

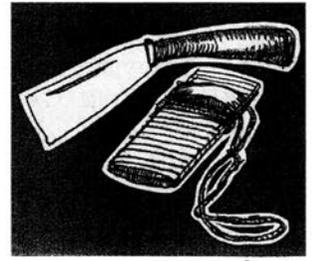
ルーム日誌

- 6月
- 4日 総務委員会 資料委員会 山げらの会
- 5日 集委員会 アルパインスケッチクラブ
- 6日 自然保護委員会 山岳地理クラブ
- 7日 学生部 アルパインフォトクラブ
- 8日 総務委員会 山研運営委員会

- 11日 アルパインスキークラブ
- 12日 常務理事会 会報編集委員会 アルパインスケッチクラブ
- 13日 山の自然学研究会 95同期会 理事会 ジャック93会 つくも会
- 14日 インターネット小委員会 山の自然学研究会
- 15日 青年部 指導・高所研究・学生部合同委員会
- 16日 山げらの会
- 18日 図書委員会 資料委員会 集委員会
- 19日 二火会 フィルムビデオ委員会 百年史委員会
- 20日 三水会 山研運営委員会 アルパインスキークラブ 97同期会
- 21日 科学委員会 学生部 山岳編集委員会
- 22日 緑爽会 アルパインスキークラブ
- 25日 総務委員会 新日本山岳誌編集委員会
- 26日 自然保護委員会 青年部 95同期会 00同期会
- 27日 科学委員会 96同期会
- 28日 青年部 98同期会 つくも会 アルパインスキークラブ
- 29日 山の自然学研究会
- 30日 自然保護委員会

6月来室者659名

INFORMATION



イラスト・宇都木慎一

◆山研プチ・オータムコンサート 「チロル音楽の夕べ」

山研運営委員会

恒例のコンサート、今年はプロとして活躍しているアンサンブル「ヤーガハイル」(狩の小屋)が演奏。アルプスの民族音楽とヨーデルを楽しんでいただきます。

ワインを飲みながらのホームパーティー、クラブライフを満喫するちよっとおしゃやれな企画です。

日時 九月十五日(土)、十九時開演

会場 上高地山岳研究所

会費 一万二千円(一泊二食、コンサート参加費、ワイン付き)

申込 九月八日までにファックスか

ハガキに住所、氏名、電話番号を明記し、坂本正智宛(〒

二〇六・〇〇三一 多摩市豊

今年もさげんがで会いましょう

ヶ丘六・二・五・一〇二

Fax 〇四二・三三七・三三三(八)

◆きのこ山行・白神 集會委員会

「津軽白神山がたり」の著者、根深誠会員の案内でブナの原生林で知られる白神山地の紅葉を一緒に楽しみませんか。ハード、ソフトのニプランを用意しました。どなたでも秋の白神山地を満喫できるプランです。今からスケジュールの調整を！

*詳細、申込は次号に掲載します。

十月五日(金)東京発夜行(八日)東京着 往復チャーターバス

費用 三万八千円程度(含交通費)

◆平成十三年度年次晩餐会

総務委員会

本年度の年次晩餐会を以下の要領で開催します。多数会員のご出席を待ちしています。

日時 十二月一日(土) 十六時開場

会場 新高輪プリンスホテル

会費 一万五千元

懇親登山 十二月二日(日)

*今年も多彩な展示と報告の企画を準備し、十一月月上旬までに案内状を郵送します。

◆紅葉の大菩薩親睦ハイク

97同期会

晩秋の大菩薩峠をめぐり、紅葉と展望を楽しむ山行です。同期以外の方も大歓迎です。

日時 十一月十日(土)〜十一日(日)

集合 JR中央線塩山駅九時

行程 塩山駅(タクシー)↓上日川峠

↓石丸峠↓大菩薩峠・嶺↓唐

松尾根↓上日川峠↓裂石

(十一日は自由山行)

宿泊 民宿「番屋荘」 〇五五三・

三二・一一五五

費用 宿泊・懇親会(約八千円)、タクシー代他

申込 ハガキに①ハイク、②懇親会、

③宿泊、の参加希望を明記の上、

十月末日までにJAC事務局・97同期会メールボックス

宛

問合せ 池谷健(TEL 〇四二三・六六

二四八五)

◆会員名簿改定します

総務委員会・名簿作成委員

二〇〇一年度の会員名簿を作成します。

記載事項(住所、電話、所属支部など)に変更のある方は事務局

までご連絡ください。変更受付は十月一日(月)までとします。

新入会員で、届出の住所、電話番号

などが変更している方も事務局へお知らせください。

◆編集後記

●夏、真つ盛りです。残念なことです。海、の事故や、山の遭難もニュースで目にします。

●最近「山」の編集を担当して感じるのは、日本山岳会の各地の支部が様々な活動を積極的に行っていることです。それも活動内容、参加年齢など非常に多様化しており、それぞれがいろいろな形で山、自然と触れ合っていることが伝わってきます。

●これからも「山」に登り、歩き、撮り、描き、眺め……といろいろな活動を伝えて行きたいと思っております。それぞれの活動を原稿として送ってください。写真、スケッチなども添えていただければより楽しいと思います。なお、原則として、原稿写真などはお返ししないことになっております。ご了承ください。

●送り先(〒一九四・〇〇三二 町田市本町田八一三・四 Fax 〇四二・七二一・一六六六 今村千秋宛)

日本山岳会会報 山 675号

2001年(平成13年)8月20日発行

発行所 社団法人日本山岳会

〒102-0081

東京都千代田区四番町5-4

サンビュウハイツ四番町

TEL 東京(03)3261-4433

FAX 東京(03)3261-4441

ホームページ: <http://www.jac.or.jp>

Eメール: jac-info@jac.or.jp

発行者 大塚博美

編集人 今村千秋

印刷 株式会社 双陽社